

厳寒期に発生する別海町の風物詩「四角い太陽」のスポットとして知られるここ白鳥台の間に国後島を望むことができます。歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島は我が国固有の領土です。この別海北方展望塔は、北方領土返還要求運動の正しい理解と国民世論の高揚のために建設したものです。



展望塔3階から見た国後島



野付湾に浮かぶ四角い太陽



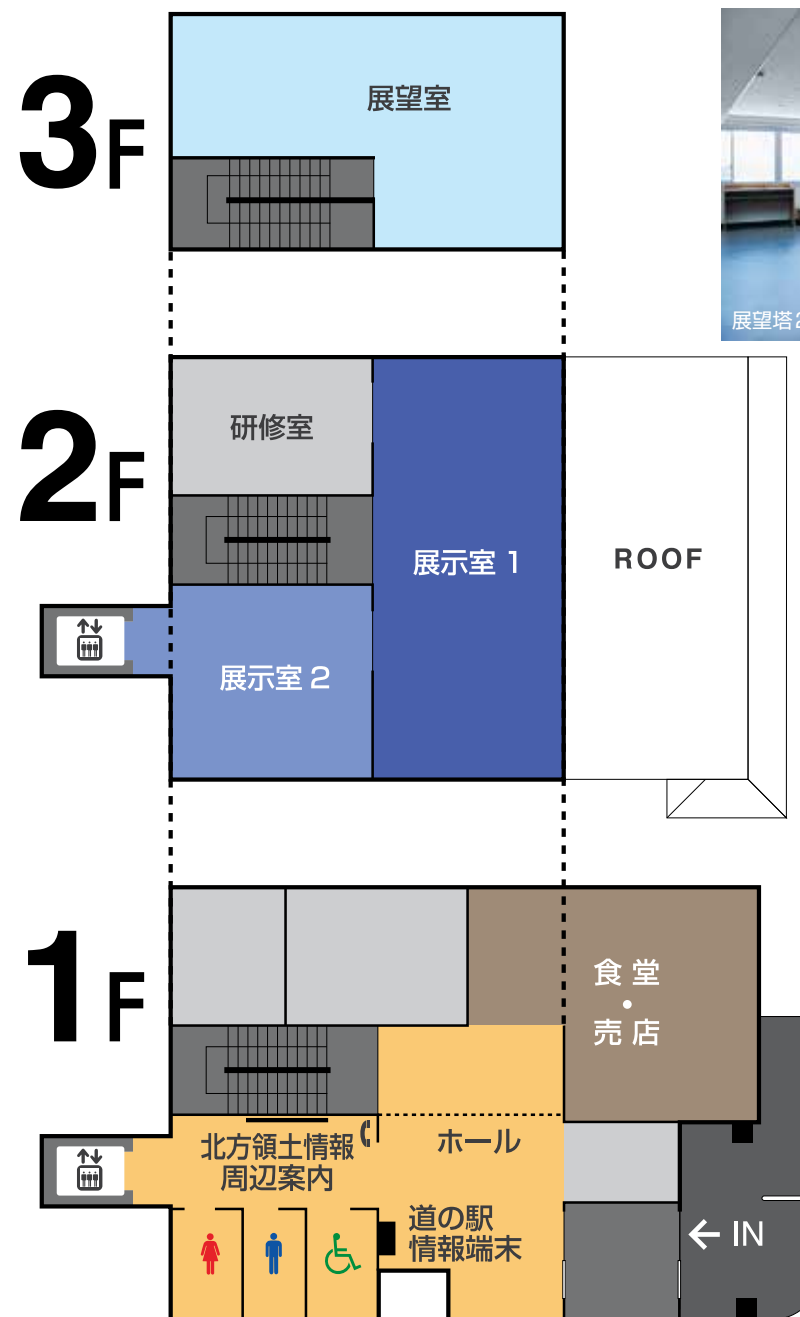
展望塔3階 展望室



展望塔2階 展示室



展望塔1階 ホール



- 建設地
野付郡別海町尾岱沼5番地27(白鳥台)
- ご案内
〈1階〉食 堂
TEL(0153)86-2449
〈2階〉展示室 〈3階〉展望室
- 別海北方展望塔の休館日
1 9月1日～6月30日
までの毎週火曜日
※祝日・振替休日にあたる場合は、翌平日
2 年末年始 12月31日～1月5日
- 別海北方展望塔の開館時間
1 5月1日～10月31日
午前9時～午後5時
2 11月1日～4月30日
午前9時～午後4時

「四島への道 叫び」の像

山形市の実業家(故)鈴木傳六氏が北方四島に近い白鳥台に、国内外の世論を盛り上げ、四島返還を実現させようという強い意思のもとに像を建立し寄贈されました。

たとえ何代か経っても北方四島を取り戻すという国民総意の気持ちを表すため、老女が孫を両わきに従え、すさまじい迫力で「返せ」と叫ぶ姿が



北方四島と別海北方展望が示されているインターロッキング

また、野付半島から国後島までの距離(16km)にちなみ、像から16m先には四島を象徴とする4本のポールが立っており、さらには目的が達成されるようにとの願いから、像とポールの間には「四島への道」が続いています。



「返せ」と叫ぶ老女と孫の像



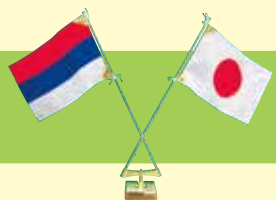
「四島への道 叫び」の建立記念碑文



別海町での意見交換会



別海町でのホームビジット



ビザなし交流事業



別海町内の施設でシェイク作り体験



野付半島の自然観察



絵手紙による交流(択捉島)



色丹島の商店



「四島への道 叫び」

別海北方展望塔

美しいふるさと



別海町



あなたの目で確かめよう

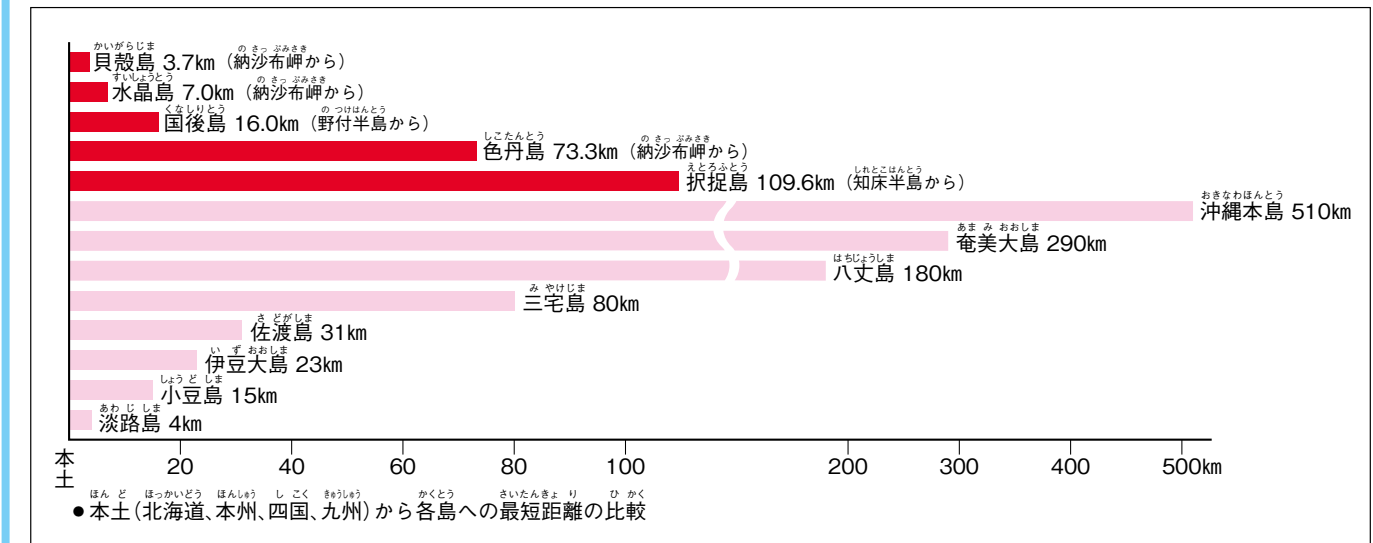
北方領土

こんなに近くて大きい北方領土

歯舞群島は、根室半島の納沙布岬からわずか3.7キロメートルの貝殻島をはじめ、水晶島、秋勇留島、勇留島、志発島、多楽島などの島々のことで、色丹島は、さらにその東北にある島です。歯舞群島、色丹島は、大むかし根室半島と地続きでしたが、土地のかんばつなどによって、離れ島になったといわれています。

国後島は、野付半島からわずか16キロメートルのところに位置し、根室半島、知床半島に囲まれています。

択捉島は国後島の東北にあり、北方領土の中では、一番大きな島です。



終戦から現在までの動き

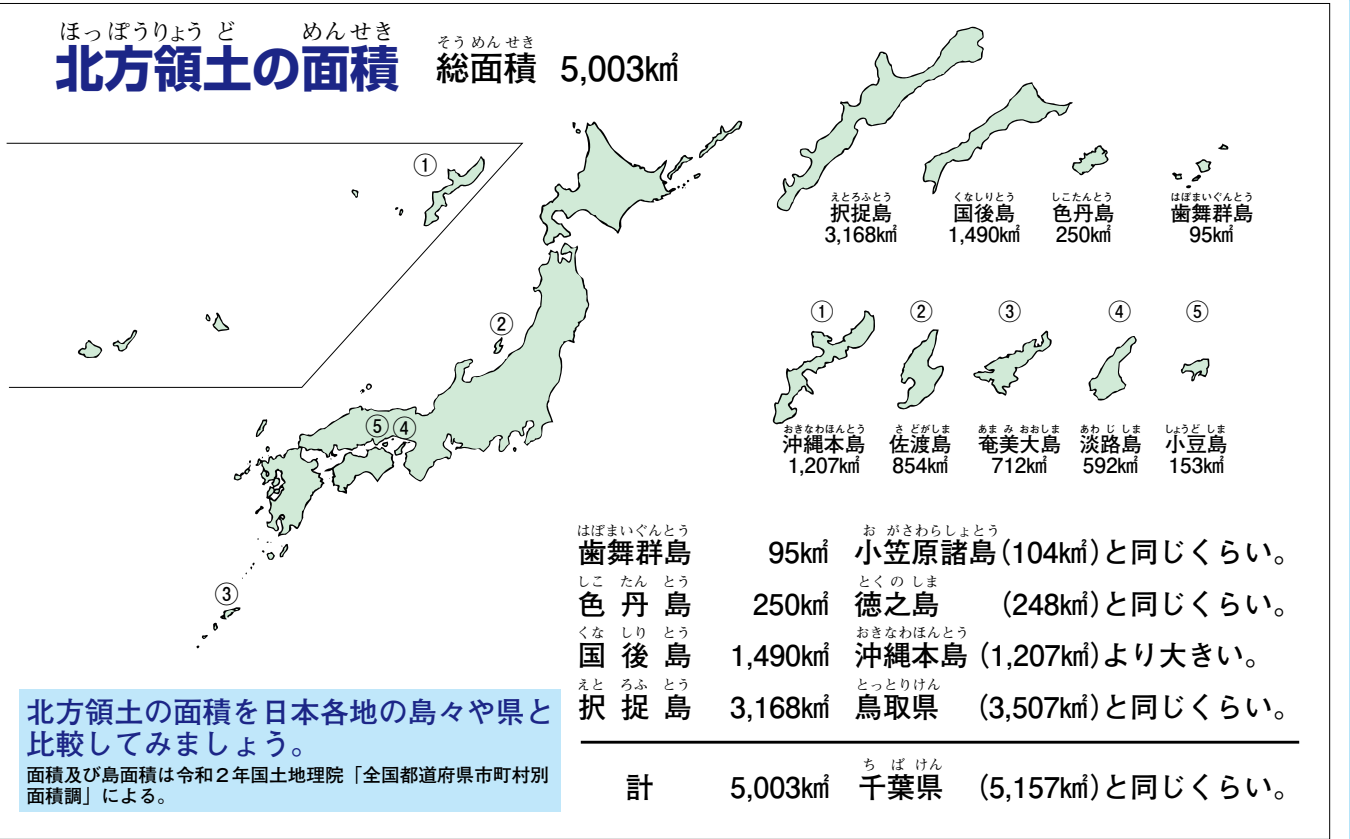
1945年8月8日	ソ連が中立条約を破棄し日本へ宣戦布告。
8月15日	日本、ポツダム宣言を受諾、太平洋戦争終わる。
8月18日	ソ連軍、占守島に上陸開始。8月29日択捉島、9月1日国後島・色丹島、9月5日歯舞群島を占領。
1947年～1948年	元島民1万7,291人は、一部自由引揚者を除き強制送還された。
1951年9月8日	サンフランシスコ平和条約調印。日本は南樺太と千島列島を放棄。
1956年10月19日	「日ソ共同宣言」調印。
1973年10月7日～10日	田中首相訪ソ、日ソ共同声明発表。北方領土問題が戦後未解決の問題として確認された。
1981年1月6日	北方領土の日(毎年2月7日)設定が閣議了解。
9月10日	鈴木総理、歴代首相として初めて北方領土を視察。
1985年3月13日	ゴルバチョフ書記長就任。
1986年8月21日	歯舞群島(水晶島)、色丹島の北方墓参(4か所)が再開。
1991年4月16日～19日	ゴルバチョフ大統領来日。共同声明で北方四島の領土問題の存在を確認。ソ連が崩壊し、新生ロシア連邦が誕生。
8月19日～21日	日ソ外相会談で領土問題分科会の設置と北方四島ビザなし交流の合意。
10月14日	北方四島交流始まる。
1992年4月22日	エリツィン大統領来日。「東京宣言」で領土問題の存在を確認。
1993年10月12日～13日	ロシア・クラスノヤルスクにおいて橋本総理とエリツィン大統領は、「1993年の東京宣言に基づき2000年までに平和条約を締結するよう全力を尽くす」ことで合意。

1997年12月30日	第13回政府間交渉(モスクワ)で北方四島水域での安全操業について協定妥結。
1998年11月13日	小淵首相、ロシア・モスクワ訪問。「日本とロシアの創造的パートナーシップ構築に関するモスクワ宣言」に署名。
1999年9月11日	歯舞群島(志発島)での自由訪問が実現。
2000年9月25日	プーチン大統領が日本を公式訪問し、「平和条約問題に関する声明」に署名。
2001年3月25日	ロシア・イルクーツクにおいて森総理とプーチン大統領は、平和条約の締結後、歯舞群島と色丹島を日本に引き渡すとした1956年の「日ソ共同宣言」が初めて法的文書で確認。
2003年1月10日	ロシア・モスクワにおいて小泉総理とプーチン大統領の首脳会談が行われ、「日露行動計画の採択に関する共同声明」に署名。
2005年11月21日	プーチン大統領訪日。「平和条約締結問題につき日両国が共に受け入れられる解決を見出す努力を行う」ことで合意。
2006年8月16日	北方四島周辺水域における日本漁船の銃撃・拿捕事件の発生。
2007年6月7日	ドイツ・ハイゲンダムにおいて安倍総理とプーチン大統領の首脳会談が行われ、「領土問題の解決に向けて、平和条約交渉についても進展を図っていく」ことで一致。
2013年4月29日	安倍首相、訪露。平和条約問題の双方に受入れ可能な解決策を作成する交渉を加速化させるとの指示を両国外務省に与えることで一致。
2018年11月14日	シンガポールにおいて、安倍総理とプーチン大統領が会談し、1956年の日ソ共同宣言を基礎に平和条約締結交渉を加速させることで合意。
2022年3月21日	ロシアが、ウクライナ情勢に係る日本の対応に対し、平和条約締結交渉継続の意向が無いことに加え、ビザなし交流及び自由訪問の停止等を発表。

2月7日は、北方領土の日

北方領土返還運動を盛り上げるため、1981年(昭和56年)1月6日の閣議で、毎年2月7日を北方領土の日と定めました。

この2月7日は、1855年(安政元年)伊豆下田で平和と友好のうちに、[日露通好条約]が結ばれた日です。この条約によって、歴史上初めて、日本とロシアの国境が択捉島と得撫島の間と決められ、択捉島から南の島々がわが国の領土であることが国際的にも明確にされたのです。このような歴史的意義から、2月7日を北方領土の日としたのです。



北方領土問題とは

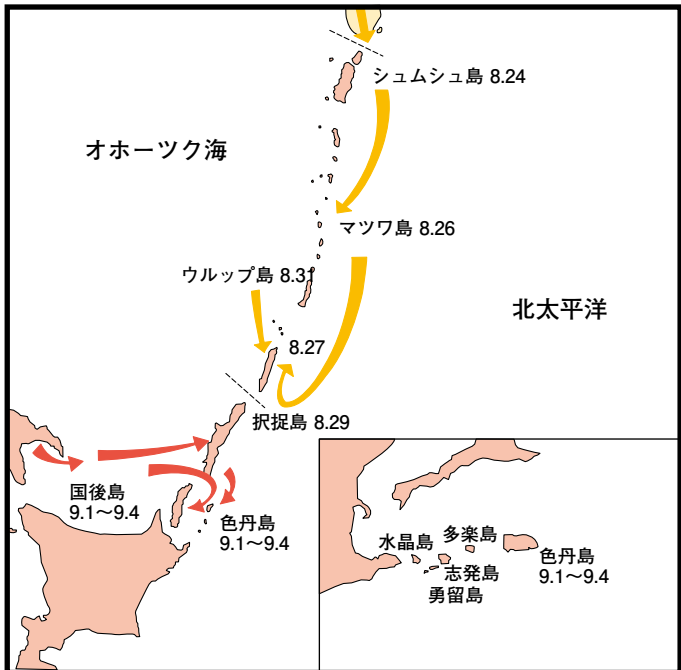
私たちが「北方領土」と呼ぶのは、歯舞群島(貝殻島、水晶島、秋勇留島、勇留島、志発島、多楽島など)、色丹島、国後島、択捉島の四島です。

北方領土は、古来私たちの先人が住み、開拓し、一度も外国の領土になったことのない日本固有の領土です。このことは、日露通好条約、樺太千島交換条約、サンフランシスコ平和条約などの歴史的事実や国際法上からみても明らかです。

ソ連は、第二次大戦後の1945年(昭和20年)8月28日から9月上旬にかけて、択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島を次々と占有し、翌年これらの島々を一方向的に自国の領土に編入し、今日に至っています。戦後、わが国は一貫してこれら四島の一括返還をロシア(ソ連)に対して要求し続けてきました。

しかし、1956年(昭和31年)日ソ共同宣言が署名され、両国間に国交が回復されてから、すでに長い年月が経過しているにもかかわらず、2000年を目標としてきた平和条約がいまだに締結に至っておりません。日・ロ両国間の真の関係改善のためには、早期に平和条約を締結し、四島の一括返還により領土問題を解決する必要があります。

そのためには、北方四島が当然わが国に帰属すべき領土であることに、国民一人ひとりが正しい認識を深めていくことが求められています。



1945年8月9日、ソ連は1941年に署名され当時有効であった中立条約を無視して対日参戦した。ソ連軍は、8月18日より千島列島への攻撃を開始し、同24日シュムシュ島、同26日マツワ島、同31日ウルフ島、同29日択捉島、9月1日から4日の間に国後島、色丹島及び歯舞群島をそれぞれ武装解除し、遅くとも9月5日までに千島列島のみならず、北方領土をも占拠したとされる。

